平成24年10月9日　朝日新聞朝刊

第3回自由都市・堺平和貢献賞

支えたい人がいる

国際平和に通じる活動に取り組む個人や団体を堺市が顕彰する「第3回自由都市・堺平和貢献賞」（朝日新聞社後援）の大賞に、ミャンマーの民主化運動指導者アウンサンスーチーさん(67)と、東日本大震災の復興支援に取り組む台湾赤十字組織（台北市、王清峰会長、約700人）が選ばれた。奨励賞はNGO「ミンダナオ子ども図書館」館長で児童文学者の松居友さん(59)。それぞれの活動を紹介する。　（森嶋俊晴）

受賞者の主な活動拠点
日本
堺
ミャンマー
台北
台湾
ネピドー
ヤンゴン
マニラ
フィリピン
ミンダナオ島

大賞　ミャンマー民主化運動指導者 アウンサンスーチーさん

スーチーさんの父は「建国の父」とされるアウンサン将軍。英国から独立する前年、スーチーさんが2歳のときに暗殺された。英オックスフォード大で政治学などを学んだスーチーさんは1972年、英国人学者のマイケル・アリス氏（故人）と結婚した。

神戸大名誉教授（比較経済体制論）の大津定美さん(74)と妻典子さん(73)＝大津市＝は、夫婦で英国に留学していた75年、マイケル氏を通じてスーチーさんと知り合った。典子さんとスーチーさんは意気投合し、家族ぐるみのつきあいが始まった。

85年、40歳になったスーチーさんは小学生の次男を連れて来日し、京大の東南アジア研究センター（現東南アジア研究所）で客員研究員として9カ月間、母国の独立運動史を研究。大津さん宅にも1週間余り滞在した。「父親を深く尊敬し、伝記を書きたいと妻に話していた。国民の暮らしに関心を持っていた」（定美さん）

軟禁生活 負けない気概

山地和家子さん（左）の腰を支えるアウンサンスーチーさん＝1月2日、ミャンマー・ヤンゴン、ガールスカウト大阪府連盟提供

88年、母親の看病のために帰国し、民主化運動に身を投じた。軍事政権によって89年から2010年まで3度にわたり自宅軟禁されたが、民主化を求め続けた。

今年4月の国会補欠選挙で下院議員に当選。最大野党「国民民主連盟」（NLD）の党首として9月に訪米してオバマ大統領と会談した。6月、軟禁中だった91年に受賞したノーベル平和賞の受賞演説で「私たちは救いの星に導かれる砂漠の旅人のように、平和をめざして旅を続けなければならない」と訴えた。

大津さん夫妻は今年1月、ミャンマー・ヤンゴンのスーチーさん宅を訪れ、26年ぶりの再会を果たした。定美さんは「元気そうだった。国民の期待に応えることは大変だと思うが、頑張ってほしい」と話す。

1月2日、ヤンゴンにあるNLDの事務所。大阪市東淀川区の山地和家子さん(80)と、当時ガールスカウト大阪府支部長だった曼谷久仁子さん(66)はスーチーさんと面会した。

「平和をめざして 旅を続けなければ」

山地さんは20年前からミャンマーに毎年長期滞在し、現地のYMCAのボランティアとして障害者らに洋裁を指導。市民がスーチーさんに託す民主化への期待を肌で感じ、スーチーさんの大ファンになった。「長い軟禁生活を強いられても、いつも背筋がしゃんと伸びていて『負けないぞ』という気持ちが伝わってくる。すごい人です」

曼谷さんは、ミャンマーの孤児院などを大阪の少女たちが訪問する「スタディーツアー」を発案。ツアーは山地さんの協力も得て2008年から続き、昨年はスカウトの世界連盟から表彰された。

日本のスカウトにあたるガールガイドに参加した経験があるスーチーさんは、今年のツアーに参加した高校生や大学生に「教育が大事」と話し、一緒にスカウトの歌を歌った。山地さんに日本語で「ありがとうございました」と声をかけ、活動をねぎらった。

曼谷さんは「平和へのメッセージを発し続けてほしい」、山地さんは「貧しい人、恵まれない人のためになる政治をしてほしい」とスーチーさんの今後に期待する。

大賞　東日本大震災の復興支援に取り組む台湾赤十字組織

台湾北部の新北市で9月5日、東京電力福島第一原発事故と同規模の原発事故を想定した避難訓練があった。台湾赤十字組織のボランティアらは避難場所となる市内の軍施設で、集まった支援物資をトラックに積み込んだり、住民に支給したりする訓練に臨んだ。

ボランティアの一人、王建魁さん(51)は、姉が東京都福生市に住む。昨年3月11日、テレビのニュースで、津波が町を襲う東日本大震災の映像を見て、すぐに家族全員で義援金を送ろうと決めた。大学生と中学生の3人の子どもは小遣いを差し出した。「台湾も自然災害が多く、そのたびに日本に助けてもらっている。今度は当然、私たちが助けるべきだと思った」

台湾赤十字に寄せられた東日本大震災向けの寄付は約43万件、25億7千万台湾ドル（約67億円）。2008年の中国・四川大地震（16億台湾ドル）や04年のインドネシア・スマトラ沖地震（6億台湾ドル）を上回る。

このうち1件で1万台湾ドルを超える寄付は2万件余り。大半は個人からの小口寄付といい、最少額は10台湾ドルだった。台湾赤十字の公式サイトに1万ドルを超える寄付者のリストが載る。

病院・住宅 再建へ救援金

避難訓練で支援物資を運ぶ台湾赤十字組織のボランティア＝9月5日、台湾・新北市、森嶋俊晴撮影

日本赤十字社が受け付けた海外救援金（約582億円、9月28日現在）のうち、台湾赤十字からの救援金は米国に次ぐ額で、アジアでは最大だ。台湾の救援金の大半は、東北3県の被災地6市町で公営住宅建設や病院再建などに充てることが決まっている。

福島県相馬市は、国の復興交付金で市が建設する災害公営住宅（復興住宅）4棟について、建設費の市負担分約1億円の支援を受ける。うち1棟（12室）は8月8日に完成した。市建築課の伊東充幸課長補佐は「入居した住民からは『仮設住宅から早く移動でき安心した』という声も聞く。支援はありがたい」と話す。

台湾赤十字の徐孝慈・災害救助部副部長(39)は、昨年5月に来日して東北の被災地を巡り、台湾の子どもたちが励ましの言葉を書いたカードを避難所に届けた。「多くのお年寄りに喜んでもらい、みなさんがどれだけ心細かったかを実感した」。当時を振り返り涙ぐんだ。

徐さんは新聞記者として8年間勤めた後、「人道支援に携わりたい」と赤十字に入った。「どの赤十字も一緒だと思うが、被災者の方の味方だと思って仕事をしている。東北のみなさんも、さまざまな困難があると思うけれど、希望を持って前進してほしい」

「我が身に起きたことのように 力を尽くした」

王清峰会長

台湾赤十字組織・王会長(60)に話を聞いた。

――寄付が集まった理由をどう考えますか。

津波が押し寄せて家がのみ込まれる衝撃的な映像が、テレビで繰り返し流れた。多くの人が涙を流したと思う。被害の大きさを思うと今も涙が出てくる。台湾と日本が長く友情で結ばれていることも大きい。きっと困っているだろうと我が身に起きたことのように思い、力を尽くした。

赤十字は3月11日の夜に募金活動を始めることを決めた。18日にはテレビ、新聞各社などが協力した募金イベントが開かれ、受け付け会場には雨の中、子どもが貯金箱を持って訪れた。

――受賞をどう受け止めますか。

台湾の人たちの真心がこもった行動を評価していただいたことを、とても感謝しています。今後も友好関係を深めていくことができればと思います。

奨励賞　NGO「ミンダナオ子ども図書館」館長 松居友さん

絵本読み聞かせ 進学を手助け

武装勢力と政府との紛争が続くフィリピン南部のミンダナオ島で、児童文学者の松居友さん(59)が目指すのは「孤独や重荷を背負ってきた子どもたちに、ほっとする場所を提供する」ことだ。

2001年、現地のカトリック司教の案内でイスラム教徒の避難民キャンプを訪れた。空腹と絶望で泣きはらした顔がそのまま固まってしまったような表情の子ども。「この子たちのために生涯を捧げよう」と移住を決めた。

電気も水道もなく、竹で編んだ小屋でほぼ自給自足の生活を送る貧しい山岳地帯などに足を運び、絵本を読み聞かせる移動図書館活動を始めた。子どもたちの笑顔に触れ、住民との絆を深めた。02年、島中部の北コタバト州の標高800㍍の高原に「ミンダナオ子ども図書館（MCL）」を開設。翌年にはフィリピンの法人格を得て「目の前の子どもを救いたい」と医療支援や就学支援も手がける。

現在、孤児や貧困家庭の子ども約620人に大学卒業までの学費や下宿代などを奨学金として支給している。このうち約100人は自宅からの通学が困難などの理由でMCLに住み込み、共同生活を送る。日本などで子ども1人につき1人の支援者（年間3万～6万円）を募っているが、半数近くの子どもの支援者は見つかっていないという。

奨学生はMCLのスタッフとして新たな子どもたちの支援にも携わっている。イスラム教徒、キリスト教徒、先住民族と民族や宗教の違いを認め合い、直面する問題を解決しようと力を合わせる。「彼らに平和で貧困のない社会を実現してほしい」と願う松居さんは、受賞について「神様はちゃんと見てくれていると思い、励みになります。少しでも多くの方に現状を知ってもらうきっかけになれば」と話した。

2008年に創設 隔年で選考

自由都市・堺平和貢献賞

中世に日明貿易や南蛮貿易により自治都市として栄えた堺市が「都市の発展には平和が欠かせない」と、政令指定都市移行（2006年）を機に08年に創設し、隔年で選考している。選考委員は委員長の上田正昭・京都大名誉教授に明石康・元国連事務次長、川島慶雄・大阪大名誉教授、千玄室・茶道裏千家前家元、多谷千香子・法政大教授。

08年の第1回大賞は、スリランカで非暴力の和平活動に取り組むNGO「スリランカ国民平和評議会」専務理事のジハン・ペレラさん、第2回大賞は高齢の在日コリアンを支える社会福祉法人「こころの家族」理事長の田内基（韓国名・尹基）さんが選ばれた。

25日に授賞式

授賞式は25日午後2時半から、堺市堺区の市立勤労者総合福祉センター（サンスクエア堺）で開かれ、台湾赤十字組織の王会長が記念講演する。スーチーさんは欠席。参加無料。先着200人。申し込みは住所、氏名、電話番号、参加人数を市人権企画課へ。電話（072・228・7159）、FAX（072・228・8070）、はがき（〒590・0078堺市堺区南瓦町3の1）、メール（jinkenki@city.sakai.lg.jp）で受け付ける。19日必着。

平成24年10月26日　朝日新聞朝刊

台湾赤十字 王会長講演

堺平和貢献賞授賞式

国際平和に通じる活動に取り組む個人や団体を堺市が顕彰する「第3回自由都市・堺平和貢献賞」（朝日新聞社後援）の授賞式が25日、堺市堺区で開かれた。大賞に輝いた台湾赤十字組織（台北市、約700人）の王清峰会長(60)＝写真＝が記念講演した。

台湾赤十字組織は東日本大震災の復興支援のために約67億円の寄付を集めた。王会長は講演で「天災は無情ですが人の世には愛があり、愛に国境はない。私たちは被災地の住民と手を取り合い一緒に努力します」と語った。

奨励賞を受賞したフィリピンのNGO「ミンダナオ子ども図書館」（MCL）館長の松居友氏(59)は、MCLの就学支援を受けた子どもたちが絵本の読み聞かせや医療支援に携わっていることを映像を交えて紹介した。台湾赤十字の王会長は講演の中で「映像を見て感銘を受けた」と述べ、副賞の100万円をMCLに寄付すると表明した。

大賞にはミャンマーの民主化運動指導者、アウンサンスーチー氏(67)も選ばれた。スーチー氏は授賞式は欠席した。